



【特集】 沖縄県立中部病院と包括連携協定を締結

2025年2月14日、臨床研修の名門・沖縄県立中部病院との包括連携協定を締結しました。これは、同病院にとって、医科大学との初の包括連携協定となります。

本協定は、相互の緊密、円滑かつ効率的な連携及び協力を図り、もって人材育成の推進及び医療の発展に寄与することを目的としています。

<連携・協力内容>

- (1) 医療の質の向上を目指す先端的な高度医療の研究
- (2) 臨床実習指導に関わる人材養成
- (3) 学生の臨床実習に関する事項
- (4) 大学院の連携に関する事項
- (5) その他、両者協議に基づく連携及び協力の事項



(左から) 沖縄県立中部病院 玉城 和光 病院長
東京医科大学 宮澤 啓介 学長

【東京医科大学】

◆ 人材育成体制の強化

- 沖縄県立中部病院が実践する米国式教育システムの導入による質の高い診療参加型臨床実習と国際基準の医学教育の実現
- これまで沖縄県立中部病院が離島医療を担う医師育成を通じて長年育てきたプライマリケアを基本とする学習機会の創出 など

【沖縄県立中部病院】

- ◆ 臨床研究の更なる充実
- ◆ 職員のキャリア支援

- 東京医科大学の研究・教育リソースの最大活用による、沖縄県地域医療・離島医療で集積したビッグ・データを用いた質の高い臨床研究の国際社会への発信
- 臨床研究を基にした先進的医療の地域社会への還元
- 東京医科大学での学位（博士号）取得によるキャリア形成 など



沖縄県立中部病院のご紹介

沖縄県立中部病院は、米軍統治下の1946（昭和21）年に開設され、その後沖縄県に移管された総合病院です。1967（昭和42）年から、米国ハワイ大学と提携した臨床研修プログラムを開始し、現在までに1300名を超える医師を輩出しています。

様々な診療科で研修を行い、全ての医師に求められる能力を養成する研修プログラムは、2004年から日本で導入された医師の卒後臨床研修制度のモデルとなっています。また、「Peer Review」を実践するためのグループ診療をいち早く導入し、「屋根瓦方式」による教育、診療体制も多くの研修病院で取り入れられるきっかけとなりました。

卒後教育だけでなく、卒前医学教育にも積極的に関わっており、地元琉球大学の教育関連病院として、医学科学生全員の臨床実習の受け入れを実施しています。



<病院HP>

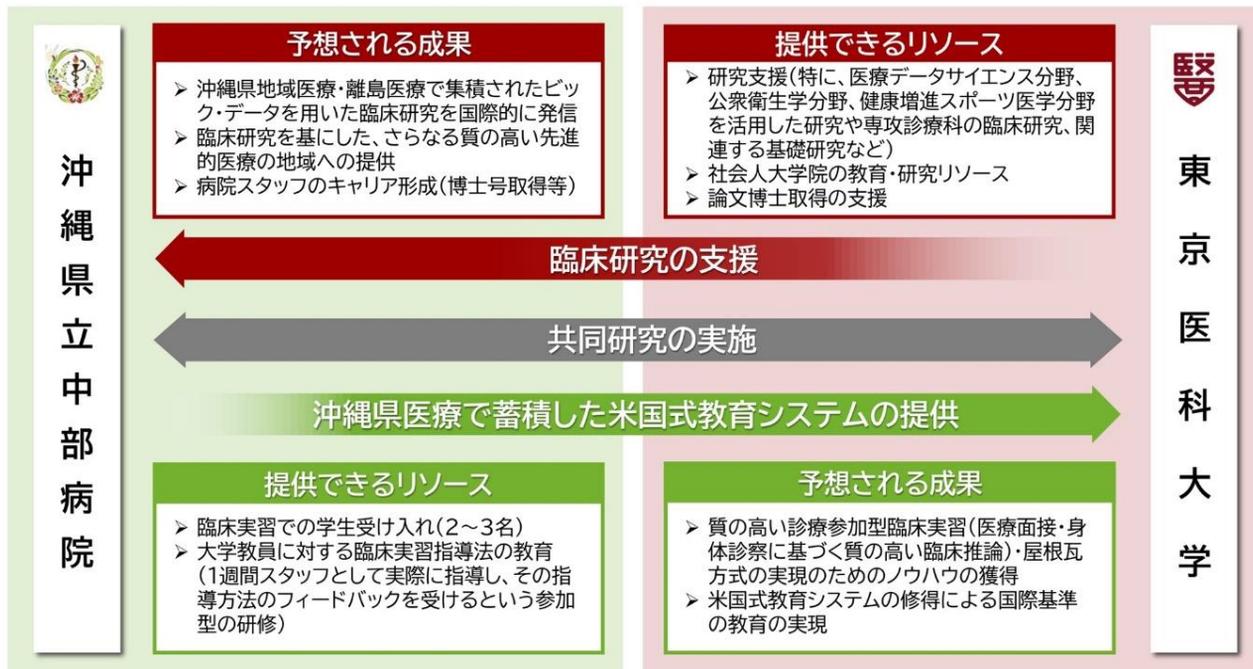


所在地：沖縄県うるま市 許可病床数：559床（一般 555床 感染 4床）

包括連携協定により提供できるリソースと予想される成果

沖縄県立中部病院と東京医科大学との包括連携

- 市中ブランド病院と私立大学という異なるカテゴリーの連携による「新しくダイナミックな教育・研究改革」の社会への発信
- 複数のネットワークを構築し、新たな価値を創出することで、変化する医学教育・臨床研究環境へのレジリエンスの獲得



沖縄県立中部病院との包括連携締結に寄せて

学長 宮澤 啓介



社会の超高齢化が進む中、高度な専門性に加え、総合的に患者を診ることのできる医師の育成は喫緊の課題です。沖縄県立中部病院（以下中部病院）は、研修医たちの間で「実戦力」が身につく研修病院として高い人気を誇っています。同病院は、米国式医学教育を全国に先駆けて導入し、医療面接（history taking）と身体診察（physical examination）（H&P）を重視した教育方針が、診療科の枠を越えて病院全体に深く浸透しているのが特徴です。カンファランスの冒頭では、あえて検査データや画像を提示せず、H&Pだけでどこまで確定診断に迫ることができるかを論理的に徹底して議論します。これにより、研修医たちは高い診断能力を修得しています。私自身、このカンファランスに参加し、本学の

学生たちに提供したい教育がここにあると深い感銘を受けました。

一方、中部病院のスタッフの皆さんは、本学の社会人大学院の研究・教育リソースを最大限活用し、医療データサイエンス分野や公衆衛生学分野、健康増進スポーツ医学分野等との連携を通じて、沖縄地域で集積されたビックデータを活用したヘルスサイエンス関連の研究や臨床研究等の研究力強化が期待できます。また、これらの研究活動を通して、中部病院のスタッフの皆さんのキャリア形成を支援できると考えています。

今回の包括連携協定が、双方にとって有意義なものとなり、今後さらに発展することを心より願っております。

締結の経緯や三苫副学長のコメントなどは[HP](#)へ

